

概 要

平成29年は3年に1度開催される瀬戸内国際芸術祭2016の翌年にあたるため、小豆島の観光において集客ほか今後における統計として大切な1年でありました。平成29年の推定観光客数は1,094,165人、対前年比96%（平成28年推定観光客数1,139,538人）となりましたが、そのうち外国人延べ宿泊者数は52,575人と前年比145%（平成28年外国人延べ宿泊者数36,151人）を数え、インバウンド客は過去5年に渡り増加の一途を辿っています。

全国のJRグループ6社と地方自治体や観光関係団体が協力して実施する国内最大級の大型観光キャンペーン「四国ディスティネーションキャンペーン」が4月から6月に開催されました。今回のキャンペーンは平成15年以来の四国地区での開催となりましたが、期間中は瀬戸内国際芸術祭2016開催中の前年を上回る入込客数となり、PRイベントの共催や観光素材の提供などを通して旅行会社や観光施設との繋がりをつくること出来ました。

昨今のインバウンド客増加や東京オリンピックを見据えた国際化への対応は小豆島における喫緊の課題であります。そのような中、行政、民間、団体が三位一体となって発足した小豆島観光国際化チームは昨年度も様々な活動をおこないました。一昨年3月から毎月定期的におこなうYOKOSO SHODOSHIMA英会話セミナーは参加メンバーの有志によって、昨年1月から4月まで二十四の瞳映画村内にて観光客を対象に英語版紙芝居「二十四の瞳」を上演しました。その活動は今年2月7日に小豆島にておこなわれた、香川県知事との「県政について話そう」知事意見交換会においても高い評価を受けました。また、7月23日には外務省の「地方を世界へ」事業にて外務大臣と10か国の駐日大使が来島し、小豆島観光国際化チームのメンバーが各所で対応いたしました。その他、夏には小豆島中央高校の学生と協力し、迷路のまちにて英語による海外向け案内動画を制作いたしました。未来の小豆島を担う若い世代との取り組みは語学の上達のみを目的とするのではなく、共同作業の過程からコミュニケーションと信頼関係が造成され、地域活性へと導くものと考えています。高松空港民営化と共に進められるLCC拠点化でFIT（個人旅行者）は更に増加することが予測され、受入側のハード面とソフト面の充実が国際的な観光地として求められています。

小豆島にて撮影や公演がおこなわれる映画、テレビ、舞台公演の製作や宣伝に対する支援をし、小豆島の観光客誘客の増大に寄与するための活動をおこなうことを目的としたフィルム・コミッション事業は昨年も映画「8年越しの花嫁 奇跡の実話」や映画「明日へ 戦争は罪悪である」の撮影など多くのメディアに小豆島の観光、産業、文化、人をご紹介いただきました。撮影時における地元住民のエキストラ協力やロケ地提供は本事業において重要な役割を果たしており、小豆島ブランドがメディア業界にて浸透し良い影響を与えます。今後も地元と一体となり小豆島の多様な魅力を国内外に発信してまいります。

その他の事業項目につきましては次のページ以降をご参照ください。